

北脇昇

Kitawaki Noboru: To See the Universe in a Seed

一粒の種に宇宙を視る

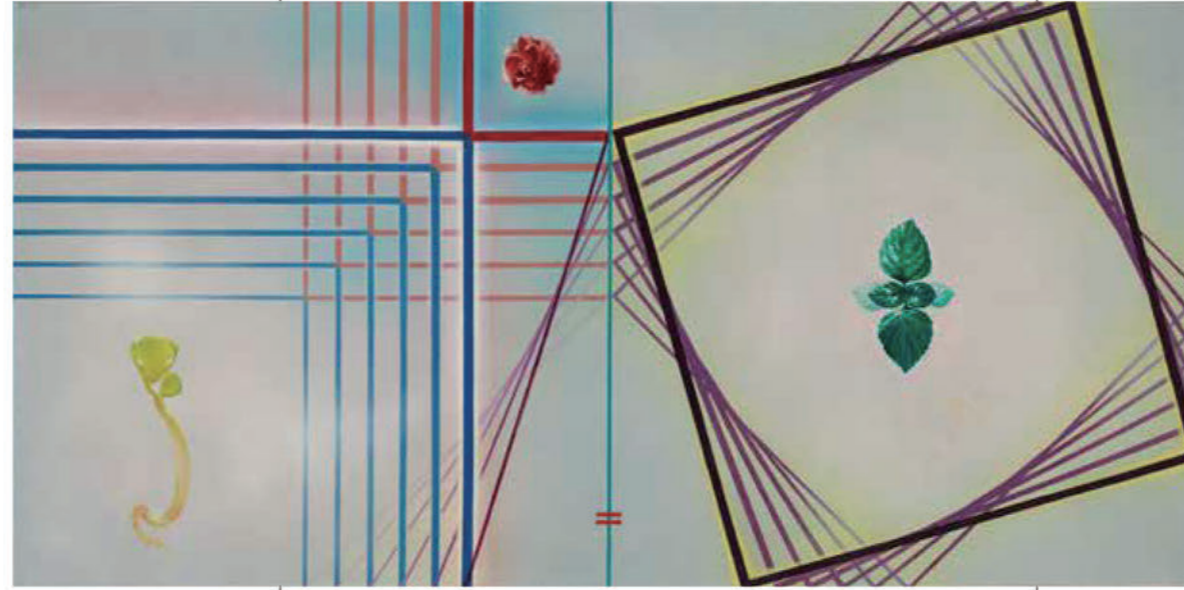
MONAT

コレクションによる小企画

《空港》1937年
《空の訣別》1937年



《空港》《空の訣別》は1937年9月21日-23日に大札記念京都美術館で開催された第3回新日本洋画協会展に出品されました。カエデの種子を飛行機に見立てた幻想的なイメージですが、この飛行機には同年7月に勃発した日中戦争が反映されています。《空の訣別》が、渡洋爆撃作戦で撃墜戦死を告げた梅林孝次中尉に関する報道記事を参照して描かれたことが、『京都日出新聞』1937年9月24日の記事から明らかになっているのです。その事実をふまえると、《空港》に漂う不安な緊張感も頷けるでしょう。



《(A+B)²意味構造》1940年

(作者のことは)

北脇昇「(A+B)²意味構造に就いて」『美術文化』3号、1940年4月

一つのタブローが何等かの解説を要求すると云ふ事は、多分に不純であると言はれ得るかも知れない。然しそれは意図の正統な表明を妨げるものではないと思ふ。のみならずそれは明晰を愛する今日の画人の一つの義務であるかも知れない。

$$(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$$

これは因数分解の一公式であるが、吾々は今この式の持つ動的相関的な意味構造をここに問題にして見度い。作品ではこの式の左右両辺は転倒して表現されてゐるが、その右辺の表現は一寸説明を要するかも知れない。

それはaとbの和を示す四辺上の各分点を結ぶと、大正方形に内接する小正方形が得られるが、この正方形はaとbが等しい場合を最小に、aとbが一方が大一方が小にその差を増大するに応じて回転し乍ら大正方形へと近づいて行く事が注意されると思ふ。この関係は例のピタゴラスの定理に依つてゐるのであるが、吾々がここで特に注意した意味構造と云ふのは、右辺なる小正方形の極大極小が左辺のa²とb²との消長と相関し、然もその極大はa²又はb²の何れかが零なる場合であり、極小はa²とb²が相等しい場合である点である。

ゲーテはその植物変化論で、有機体が生長と生殖又は拡張と収縮なる二つの格率に於てメタモルフォーゼする事を説いてゐるが、今吾々はこの数式的動的相関の意味構造にそれと対応するものを感じ、本来抽象的なこの概念内容の感性化を企図して見たのがこの作品なので、実はこれは一個の図式に過ぎない結果に終つてはしないかとの杞憂もないではないが、カントが彼の図式論に於て暗示してゐるやうな(直接的現象でもなければ模象でもない)独自の本質を有すると云ふ「図式—形象」のやうな新世界への探険も又、何等かの意味を持ち得るのではないだらうかと云ふのが目下の吾々の意欲の全てなのである。

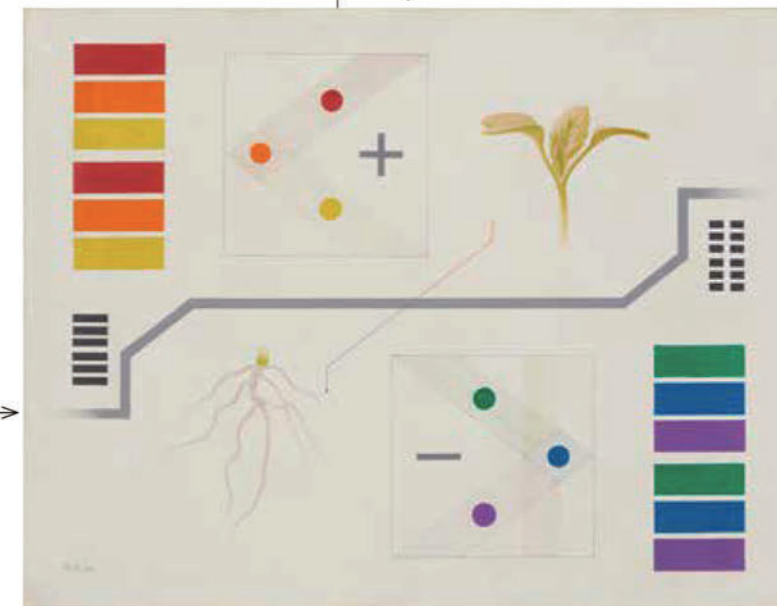
根の芽と葉の芽。此等は始めつから相互に結合してゐる。否他方なしには一方は考へられぬ。此等は又始めつから相互に対立して居る。何故に根の芽は下方に向つて伸び、葉の芽は上方に向つて展開して行くかと云ふ間に答へて、これら二つのものは普遍的な自然二元論に従つて相対立して居るのだと、我々は云はう。この自然二元論が根の芽と葉の芽の形をとつて特殊化されてゐるのである。

(ゲーテ、村岡一郎訳「植物生理学の予備的研究」『ゲーテ全集』26巻、改造社、1935年、pp.280-281)

画面の上下を分割する線は、右上と左下にそれぞれせり出している。「巴」の記号のような、上下の交流・対流が示唆されている。



画面の上半分には「+」の記号、植物の芽、易の「乾」の記号が描かれている。易の記号には暖色(赤、橙、黄)が用いられる。



画面の下半分には「-」の記号、植物の根、易の「坤」の記号が描かれている。易の記号には寒色(緑、青、紫)が用いられる。

《周易解理図(乾坤)》1941年

易では陽の記号(☰)と陰の記号(☷)が最小単位となる。これらを三段重ねると、8通りの記号ができる(=八卦)。これらが8つの自然の状態を表す。この八卦を二つ組み合わせた六十四卦が、自然の移り変わりを表す。

乾=陽の記号(☰)を六段重ねにしたもので「天」「君主」を意味する。
坤=陰の記号(☷)を六段重ねにしたもので「地」「君主に仕える者」を意味する。

北脇昇 一粒の種に宇宙を視る

Kitawaki Noboru: To See the Universe in a Seed

2020年2月11日—6月14日 東京国立近代美術館 ギャラリー4
The National Museum of Modern Art, Tokyo Gallery 4
February 11 – June 14, 2020

北脇昇(1901-1951)は1930年代から40年代にかけて京都で活躍した前衛画家です。これまで彼の作品は、シュルレアリスム(超現実主義)の影響の側面から語られることがほとんどでした。例えば《空港》(1937年)において、カエデの種子が同時に飛行機にも見えるような、形の連想によって幻想的なイメージを生み出そうとする手法がそれにあたります。けれども本展では、北脇がそうしたシュルレアリスムの思想や技法を借りながら、本当にやりたかったことは何だったのか、ということに目を向けたいと思います。それは、私たちをとりまくこの世界の背後にある見えない法則を解き明かし、世界観のモデルを示すことでした。北脇はそうした信念のもと、シュルレアリスムだけでなく、数学をはじめ、ゲーテの自然科学や古代中国の易などを駆使して、独自の図式的な絵画を生み出しました。

一粒の種子が発芽し、成長をとげ、開花し実を結び、そして新たな種子を生み出すことに、天地の法則すべてが凝縮されていることを見出そうとした彼の、他に類をみない制作の歩みを紹介します。

The avant-garde painter Kitawaki Noboru (1901-1951) was active in Kyoto in the 1930s and 1940s. Thus far, his work has generally been discussed in terms of Surrealist influence. For example, this aptly describes his approach in *Airport* (1937) of generating fantastical imagery through association of shapes, so the maple seed pods can also be seen as planes. However, this exhibition aims to examine what Kitawaki was actually seeking to accomplish in referencing the ideas and techniques of Surrealism: to decode the invisible laws behind the world around us, and visually reveal a model of his worldview. Based on this philosophical mindset, Kitawaki produced paintings that reference not only Surrealism, but also mathematics, the natural science of Goethe, and ancient Chinese divination.

Here we shed light on the development of Kitawaki's distinctive approach, in which he sought a unification of all the laws of heaven and earth as if condensed in a single seed that sprouts, grows, blossoms, bears fruit and produces new seeds.



企画・編集・執筆 大谷省吾(東京国立近代美術館 企画課長)

監修 栗原 健一(文芸春秋)

グラフィックデザイン 三木俊一(文芸春秋)

印刷 加藤文雄社

発行 東京国立近代美術館 ©2020 東京国立近代美術館

Center and Editor Oriat Shigeru (The National Museum of Modern Art, Tokyo)

Translator Christopher Stephens

Designer Miki Shimizu (Shuhyo-Zanshoin)

Printer Kyo Bunmeisha

Publisher The National Museum of Modern Art, Tokyo ©2020 The National Museum of Modern Art, Tokyo

MOKATI 支援グループ
本「アート」グループ
株式会社三井住友銀行
東京三井住友信託銀行
三菱東京UFJ銀行
三井住友信託銀行
日本印刷株式会社
アール・エフ・メイプル
株式会社三美グラフィック

MOKATI Corporate Partnership
Kinoshita Group
LUXURY CARD
Sumitomo Mitsui Banking Corporation
Takeda Tokyo Securities Co., Ltd.
Mitsubishi Corporation
Dai Nippon Printing Co., Ltd.
AVANT Group
Sumi Corporation

北脇昇 略年譜

1901 (明治34)年 名古屋に生まれる。

1910 (明治43)年 京都の叔父のもとに移る。

1919 (大正8)年 鹿子木孟郎の画塾に入り2年ほど学ぶ。

1930 (昭和5)年 津田青楓洋画塾に入る。

1932 (昭和7)年 第19回二科展に初入選。

1933 (昭和8)年 津田青楓洋画塾解散に伴い、独立美術協会京都研究所を開設、須田国太郎を指導者に迎える。

1934 (昭和9)年 第4回独立展に入選。1939年の第9回展まで出品

1935 (昭和10)年 独立美術協会京都研究所の有志で新日本洋画協会を結成。

1937 (昭和12)年 シュルレアリスムの影響を受ける。

1938 (昭和13)年 前衛画家たちとともに創紀美術協会を結成し京都と東京で展覧会を開催する。

1939 (昭和14)年 創紀美術協会を発展的に解消し美術文化協会の結成に参加。図式的な絵画の制作を始める。

1940 (昭和15)年 第1回美術文化協会展に《(A+B)²意味構造》などを発表。

1941 (昭和16)年 第2回美術文化協会展に易を用いた作品を発表。

1947 (昭和22)年 日本「アート」グループ美術家クラブ結成に参加。

1948 (昭和23)年 日本美術会京都支部の支部長となる。

1949 (昭和24)年 第9回美術文化協会展に《「オ・ヴ・ヂ・ニス」》を出品。

1951 (昭和26)年 肺結核により没。

題名	制作年	技法・材質	媒体	購入	作品番号
空港	1937	油彩・キヤンバス	oil on canvas	購入	000013
空の決別	1937	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000233
樹の根と芽	1937	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000234
最も静かなる時	1937	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000236
借景(観相学シリーズ)	1937	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000238
委生(観相学シリーズ)	1938	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000239
聚落(観相学シリーズ)	1938	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000240
影(観相学シリーズ)	1938	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000241
孤独な終末	1938	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000242
浄火	1938	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000235
形態学の為に	1939	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000247
種の意欲	1939	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000248
総合と分析	1940	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000249
秩序混沌構造	1940	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000250
(A+B) ² 意味構造	1940	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000251
文化類型図式	1940	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000252
周易解理図(八卦)	1941	油彩・カラー・ジュエ(字・画)・キヤンバス	oil and collage on canvas		000253
周易解理図(乾坤)	1941	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000254
周易解理図(寒乾)	1941	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000256
数学的スリル	1942	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000257
紫野の景観	1942	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000258
水仙の形態学	1946	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000260
自我像	1947	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000014
クオ・ヴ・ヂ・ニス	1949	油彩・キヤンバス	oil on canvas		000263
月1	1937	油性インク、エッチング、カラー・ジュエ、その他、紙	oil based ink, etching, collage, etc. on paper		P00317-001 *
月2	1937	インク、その他、紙	scraping, etc. on paper		P00317-002 *
土星への幻想	1938	デカルコマニー、カラー・ジュエ、紙	decalcomania and color on paper		P00316 *
滝安寺石庭測図	c.1939	墨、インク、鉛筆、色鉛筆、紙	sumi, ink, pencil and color pencil on paper		W000038 **
素描	c.1939	鉛筆・トローツング・ペンシル	pencil on tracing paper		M00157-044
《形態学の為に》のための下絵	c.1939	鉛筆・トローツング・ペンシル	pencil on tracing paper		M00157-046
素描	1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-032
素描	1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-033
素描	1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-034
素描	1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-035
素描	1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-036
素描	1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-037
素描	1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-040
桔梗	c.1946	鉛筆、色鉛筆・紙	pencil and color pencil on paper		M00157-043 **
自画像	1951	鉛筆、色鉛筆・トローツング・ペンシル	pencil and color pencil on tracing paper		D00057 **
オブジェ	c.1942	木	wood		M00645

(展示期間) 本展: * = 2月11日-4月12日 / 本展: ** = 4月14日-6月14日 / 無印=全会期展示)